

# 一般質問

## 一問一答

第2回定例会の一般質問は、3月6日・9日・10日の3日間行なわれ、15人の議員が活発な議論を展開しました。

質問順序	議席	氏名	質問順序	議席	氏名	質問順序	議席	氏名
1	9番	中川 庄一議員	6	19番	渡部 寛一議員	11	1番	岡崎 義典議員
2	13番	渡部 一夫議員	7	18番	小川 尚一議員	12	15番	水井 清光議員
3	5番	奥村 健郎議員	8	10番	鈴木 昌一議員	13	8番	山田 雅彦議員
4	2番	門馬 和夫議員	9	11番	田中 一正議員	14	3番	但野 謙介議員
5	14番	鈴木 貞正議員	10	12番	荒木千恵子議員	15	20番	志賀 稔宗議員

質問順に掲載しています。また、内容は紙面の都合で要約しています。 ※詳しい質疑応答はインターネット録画中継をご覧ください（6月上旬まで）。 議事録は6月上旬頃掲載の予定です。アドレス：<http://www.city.minamisoma.lg.jp/>

除雪事業計画を改定した。市民生活への影響

答 建設業組合との協議を重ねてきたが、豪雪地域のように短時間で除雪は難しいと判断し、平成26年11月に除雪事業計画を改定した。市民生活への影響

問 平成26年2月の豪雪での除雪対応が遅れて混乱を招いたが、今後本市の豪雪対応策について何う。

答 27年度から福島県実行委員会が立ち上がり基本計画、実施計画を決定し29年度から福島県実施本部で準備が進められる。本市としても県が進める計画に基づき連携、協力していく考えでいる。



中川 庄一 議員

問 相馬野馬追伝承施設の進捗について何う。

答 北郷騎馬会が独自に整備する場合、どのような支援ができるか検討中。騎馬会と調整を図っている。

問 小高区の市街地整備基本計画の中でパブリックコメントの実施とあるが策定に当たり、提出された意見を計画的に反映させていくのか何う。

答 小高区の市街地整備についてはパブリックコメントをかけたおり、出された意見については精査をし小高区の検討委員会にかけて反映していく考えである。

を最小限にするよう努めている。昨年のような豪雪の場合は除雪については3日はかかると考えている。

全国植樹祭は  
復興の第二步！



全国植樹祭予定地（雫・萱浜地区）

### 質問を終えて

復興には程遠い。復旧道半ば。

その他の質問

① 小・中学校の再編は  
② 学校給食の地元食材  
使用は



渡部 一夫 議員

# 市長の政治姿勢について

## 教育環境の充実を

**問** 全国トップレベルを目指す教育環境を構築し、実績を上げるには、きめ細かな計画と人材を必要とし、その実行が求められると考えますが、見解をお伺いします。

**答** 本市においては、南相馬市学力向上推進プランを策定し、全国トップレベルを目指す教育環境の構築に努めて参りたい。このため、学校教育課指導主事による学校訪問指導、先進地への視察、研修事業、さらにスパーティーチャー招聘事業等の実施により教員研修を充実させ、教員の一人一人の授業力向上を図っていく考えです。

また、ICT利活用教育推進事業やキャリア

ア教育支援事業、更に学校図書館支援員の配置により教育環境の充実に努めて参りたい。

## 安全・安心な生活を

**問** 放射能に対する受けとめ方に差異がある訳ですけれども、市民が求めているのは心の底からの安心安全ではないかと思えます。今後の市民への対応についてお伺いします。

**答** 市では、市民の放射線に対する不安を軽減するため、これまで小中学校における放射線に関する授業や被曝検査及び放射線モニタリング結果の公表、専門家による講演会、座談会の開催などを行ってきたところで、更に市民の個別具体的な不安の声にきめ細かく対応していきたいと考えています。



全国トップレベルを目指す教育環境を

## 質問を終えて

安全安心な生活環境の整備と、生命財産を守る制度の確立を求めたところです。

### その他の質問

- ① 復旧・復興、再生に向けて
- ② 社会保障。税番号制度の導入は
- ③ 地域医療、介護総合確保推進法の取り組み



奥村 健郎 議員

# ブランド化と6次化支援策は

## 小高では美化事業、鹿島区はBDF実証事業、原町区は食用油としてそれぞれ菜種などの栽培が規模に展開されています。そこで、市が主体的に取組め、ブランド化や6次化による商品開発につなげる考えがあるか伺う。

**答** 6次化に向けた取組みは承知している。菜種栽培も積極的に推進しており、生産技術向上の勉強会や、小売業者、加工業者との意見交換も行ってきた。また、県の地域農業モデル創出事業活用による菜種油（油菜ちゃん）の商品開発にも支援してきた。今後

も積極的に支援し、農工商連携による地域のブランド化の開発や6次化に取り組む。**食糧作物生産に不安を感じる農家に対し、農地を守る農家支援策として、産地交付金等の助成対象となっていない多様な資源作物についても支援すべきと考えるが如何か。**

**答** 26年度は、ソルガム6.6ha、デントコーン3.7haの支援を行った。27年も20kmの内外を問わず、資源作物栽培実証事業に支援を行う。原料価格と生産価格との乖離など多くの課題があり、実証栽培による検証結果を踏まえ国に対し支援を働きかける。

**問** 地元食材の地産地消を前面に出す時期と考えるが如何か。  
**答** 27年度は、具体的に直販やイベントなどのPR活動を通じ、運動を進めていきたい。



油菜ちゃん（菜種油）と6次化（マヨネーズ）

## 質問を終えて

菜種搾油料、1kg当たり200円超が相場。地元での搾油所建設がブランド化のカギ。

### その他の質問

- ① 27年産米作付けに対する支援策は
- ② 小高市街地整備計画の基本的考えは
- ③ 長期特例宿泊での帰還準備支援策は